

2014年11月21日、韓国の国家報勲処は大田頭忠院(国立墓地)で「独島大捷」60周年記念式を行った。「独島大捷」とは、1954(昭和29)年11月21日に竹島で海上保安庁巡視船「へくら」

談論

風発

▷▷451

韓国の竹島不法占拠を考える

独島義勇守備隊をめぐる論議

島根県竹島問題研究顧問 藤井 賢二



人などで構成された33名の守備隊員は、53年4月20日独島に上陸して、56年12月30日に独島警備を警察に引き継いで解散するまで、独島に接近する日本の巡視船を阻止する

96年に韓国政府は元守備隊員を叙勲し、2005年には独島義勇守備隊支援法を制定した。これに対して守備隊は3年8カ月も駐留していない、33人の中にはニセ隊員がいる、日本の巡視船を攻撃したのは守備隊ではないなど、顕彰事業を非難する声があった。

「へくら」を韓国人が砲撃した事件である。巡視船への銃撃は前年の7月と、同年8月にも起きていたが、この砲撃事件で韓国の竹島不法占拠は決定的になった。

当時、日本政府は問題をあくまでも平和的に解決する方針で、危うく難を逃れた巡視船が韓国と交戦したわけではなく、その実態は「独島大捷(勝利)」などではない。「独島大捷」記念式に

非難に対応して06年に監査が実施されたが、結局、独島義勇守備隊記念館設立など顕彰事業は中止されなかった。金明基「独島義勇守備隊と国際法」では、守備隊の活動は韓国の実効支配を証明するものだとして評価され、そのリーダーは「独島義勇守備隊の歴史歪曲」は韓国政府が「独島を放棄した」と日本につけ込

合わせて行われたのが、その功労者とされる独島

人であり、彼らは2日前に隠岐高校実習船・鵬丸から米6升を与えられて飢えをしのいでいた。島根県の報告書に残る彼らの名簿に独島義勇守備隊員の名前はない。

54年5月の鳥取県水産試験場試験船・鳥取丸の竹島調査の時に日本人が見たのは、50人ほどの韓国人が不法漁撈する姿だった。彼らの中には、「日本に連れて行って欲しい。53年6月に島根県と海上保安庁が竹島合同調査を実施した。その時竹島にいたのは、ワカメを採る6人の密入国韓国

本海新聞」より)。96年に韓国政府は元守備隊員を叙勲し、2005年には独島義勇守備隊支援法を制定した。これに対して守備隊は3年8カ月も駐留していない、33人の中にはニセ隊員がいる、日本の巡視船を攻撃したのは守備隊ではないなど、顕彰事業を非難する声があった。

ふじい・けんじ 島根県吉賀町出身。専門は近現代日朝・日韓関係史。